

ランドスケープ・アーキテクチャ・デザイン研究室

教員名：五島聖子

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

ランドスケープ・アーキテクチャ (Landscape Architecture) は、19世紀後半に都市の環境問題対策として計画されたセントラルパークの造成を機にアメリカで生まれた、造園空間だけではなく都市や自然公園を審美的、政治的・文化的・環境保全的役割を考慮して自然環境を計画する専門分野です。(右写真：セントラル・パーク) 人間を取り巻くすべてのスケールにおける自然環境をデザインするランドスケープ・アーキテクチャは、非常に幅広い学問領域で、芸術、科学、デザイン、そして環境の問題を取り扱います。究極的には人間の生活環境をいかにデザインするかということですが、そのデザインに期待される社会的・文化的に担う役割は時代とともに移り変わっています。



この研究室では、21世紀の現在、ランドスケープに何が求められ、どのような可能性があるのか、また環境問題や生態系保全問題、また社会問題や人々の健康が、どのように緑地のデザインによって改善することができるか検討します。特に研究においては、21世紀の通信手法を駆使し、長崎大学以外の国内の大学や、アメリカ・カナダ・中国・香港の大学と共同研究を進めますので、他大学の研究者とのコミュニケーションに興味のある、外向き志向の学生さんを歓迎します。

● 先輩はどんなところに就職しているの？

長崎大学では本研究室から卒業生はまだ出ていないので、前例がありませんが、アメリカではランドスケープ・アーキテチャーを勉強すると、卒業生はランドスケープを携わる建設事務所、公園局、あるいは政府関係の都市計画事務所に就職します。特に歴史を専攻した学生は、史跡保存計画事務所に就職したり、園芸療法を専攻した学生は、病院や学校のセラピストになったりします。